



## 遊学舎武雄こども園 園だより

2024(令和6)年12月号

### 「174のころ」

年長さんが11月中旬頃から、午睡から目覚めるときに年下のクラスにお手伝いに来てくれるようになりました。「せんせい、入ってもいいですか?」とちいさな声で尋ね、「お願いします」の返事を待ち部屋に入り、コットを重ねてくれたり、まだ起きていない子には「おきるよ」と優しい声をかけながら起こしてくれます。

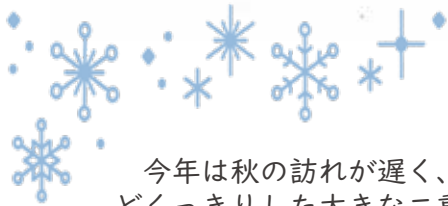
「せんせい、イスをだそうか?」「何個?」と聞きながら準備をしてくれて「お部屋に戻らなくても大丈夫?」と言葉をかけると、「大丈夫?」とおやつを食べられる状態になるまで手伝ってくれる頼れる年長さんです。最近は園庭で年下のクラスのお友だちを見つけると、走って行き手をつなぎ、遊びたい場所へつれていってくれる姿をたくさん見ることがあります。異年齢交流が自然にできていて嬉しく思います。

子どもたちの成長している姿を見ることができ、保育者として感無量です。これからもしっかりと見守っていきたいと思います。





年長児のRくんは最近「平和」について語るようになったそうです。(The One で使用した曲の背景かな?) ニュースの話題も知っているRくん。さとうちでの会話やTVで聞かれるのでしょう。平和って何だろう? 大人にとっても、人によって捉え方が様々な、難しいテーマかもしれません。しかしRくんは、自分なりにどうすれば平和になるのか考えたんですね。「悪いものをやっつけたら平和になる」というRくんの言葉や絵には、本当に純粋な「平和への願い」がこめられているように感じました。子どもには難しいだろうと思われるようなことも、大人が「悪うよ!」と子どもたち(子どもたちなりに)に思い巡らすことができるのです。未来を担う子どもたち。平和を願う人たちが担う世の中は、どんなにか素敵でしょう。



今年は秋の訪れが遅く、気が付いたらあっという間に12月。今年を振り返ると、驚くほどくっきりした大きな二重の虹や太陽の周りにかかる円形の虹など、例年よりもたくさんの虹に出会った気がします。雨は虹をつくり、青い鳥は皆に幸せを運ぶ、という歌詞の一節があります。ある面だけ見ると、雨とはわずらわしいもの。青い色はネガティブなイメージ。しかし、自分の立っている位置や見る角度を少し変えるだけで、それらは全く別のものに生まれ変わる。

「視点」の持つ力。子育ても、人も、一面だけを切り取って見ることの危うさ。そんなことを時々考えます。本来人間はそんなに単純なものではないし、子育ても然り。今まで自分自身をつくってきた時間の長さ按比例して重くなっていくその重力は、今、自分が立っている場所からの移動を難しくさせることもある。

一方で、子どもたちが見る景色や視点はいつも重力を持たず、軽々と壁を飛び越え、ふわりと漂っていく。そんな姿が当たり前のように溢れる園で、私は自省することだらけだ、と思う1年でした。

さて、皆様の1年はいかがでしたでしょうか。当たり前のように我が子を起こし、ご飯を食べさせ、時計とにらめっこする朝。お迎え時の笑顔にほっとするあの瞬間。晩御飯の準備、片づけ、お風呂。そして夜、やっと自分の時間に見る昨日の映画の続き。ふとした瞬間に聞こえてくる小さな寝息。永遠に続くかと思われるそんな日々も、少し視点を変えると、当たり前ではないのかも知れません。どんな日々であっても「共に在る」こと。お子様が望むことは、ただそれだけなのではないでしょうか。

保護者の皆様、今年1年間、園の教育・保育にご理解とご協力を賜り本当にありがとうございました。皆様の温かな想いと想いがつながり、子どもたちを優しく包み込んだ1年となりました。どうぞ大切な方々と穏やかな年末年始をお過ごしください。